

会議議事録

会議の 名称	動物実験委員会	日時	平成28年 3月17日(木)17:30~18:00
		場所	小会議室
出席者	委員長：澤田副院長（併臨床研究部長） 出席者：森村統括診療部長、山本生理研究室長、須藤分子遺伝研究室長、 清水再生医学研究室長（欠）、大江田治験管理室長、関外部委員 (書記)庶務係長		
議 題 及 び 討 議 事 項			
<p>1. 動物実験委員会構成員について</p> <p>澤田委員長：平成28年度の動物実験委員会構成員は、大江田臨床研究部長、森村統括診療部長、山本生理研究室長、須藤分子遺伝研究室長、清水再生医学研究室長とし、委員長は大江田臨床研究部長、副委員長は森村統括診療部長とする。また、外部委員は引き続き、関あずさ国際部長にお願いする。</p> <p>※了承。</p> <p>2. 動物実験計画書の審議について</p> <p>【生体内で部分凝集したαシヌクレインがもたらす神経細胞機能異常の解析】 (申請者：神経内科医長 山本 兼司)</p> <p>申請者説明：パーキンソン病 (PD) やレビー小体型認知症 (DLB) の病因と推察されている部分凝集したαシヌクレインが神経細胞の興奮性やシナプス伝達に生ずる影響を細胞電気生理学的に解析し、PDやDLBの病初期に生ずる神経機能異常を明らかにする。実験方法は、ラットおよびマウスをイソフルラン麻酔下（空気をキャリアガスとして濃度2.5%で吸入）にて断頭し大脳を取り出したうえで大脳皮質急性スライス標本を作成する。このスライスにO₂/co₂混合ガスをバブルしたリンゲル液を還流させ、大脳皮質錐体細胞にパッチクランプを施行し、パッチピペットからαシヌクレインを投与したうえで神経活動やチャンネル電位を記録する。これらのたんぱくが神経内のどのチャンネルや受容体に機能異常をおこすかを調べるため、これらのチャンネルや受容体を修飾するさまざまな薬剤を投与が必要で上記の匹数を必要とする。また、チャンネルに対する修飾機構はマウスとラットで異なるため(*1)、同じ実験をラットとマウス両種で施行する必要がある。</p> <p>当課題は継続課題であり、引き続き承認をお願いしたい。</p>			

関外部委員：実験動物を入荷してから安楽死させるまで倫理面を配慮し飼育されている事が明言されなければならない。よって、動物を臨床研究棟動物室にて飼育し、保育状況を観察して問題ないことを確認していることを、動物実験計画書に明記しておく必要がある。

澤田委員長：申請者には、実験動物の使用状況に関して、動物実験計画書の「その他必要または参考事項」に追記をお願いする。当課題については、承認とする。

2. 動物実験舎の運営・管理について

澤田委員長：平成27年度より使用されていない動物実験舎の消毒を平成28年度に、行うよう管理課にお願いする。

庶務係長：了解しました。

3. その他について

関外部委員よりレクチャーを受ける（別添資料）。

以上